

講壇点滴

主の食卓にあずかる

申命記三三章三〜六節
コリントの信徒への手紙1
一〇章一四〜二二節

牧師 姜 涇 米

神様の真剣な、具体的な愛によって、私たちのために用意されているのが聖餐の食卓です。聖餐のパンは、キリストの体にあずかることです。聖餐の杯は、キリストの血にあずかることです。神様の独り子イエス・キリストが、私たちのために十字架にかかり、肉を裂き、血を流して、苦しみを受け、死んでくださったことを、聖餐のパンと杯は表しているのです。そこに、神様の私たちへの真剣な、具体的な愛があります。

聖餐にあずかることは、この神様の愛を受け、愛を味わい、主イエス・キリストとの交わりに生きることです。また私たちは、聖餐にあずかることによって、主イエス・キリストの体と共にあずかり、大勢でも、キリストの体と共に連なる一つの体となるのです。教会は、聖餐と共にあずかる者の群れなのです。聖餐は、主イエス・キリストによる神様の恵み、愛にあずかるための食卓です。神様が私たちを愛していただく、その神様も愛も目には見えませんが、神様はその愛のために独り子をこの世に遣わしてください、独り子主イエスの命を与えて、私たちの罪を赦し、新しい命に生かしてくださいます。

大事なことは、私たちが常に、父なる神様が備えてくださった食卓である聖餐に連なり、そこで与えられる神様の愛によって養われている者なのだということをしつかり覚え、その食卓を何よりも大切にすることです。私たちは、目に見えるこの世の何かよりも、もつとすばらしい、もつと恵みに満ちた神様の真実な愛を与えられているのです。

その神様の愛の、目に見えるしるしとして与えられている聖餐において、主の食卓にあずかっているから、私たちは、目に見えない神様を、目に見えないままで信じ、従い、礼拝することができるのです。

(七月四日 公同礼拝)

九月講壇一覧

第一主日(九月五日)

公同礼拝

「光の入りの口」

詩 編

マタイ

一三九・一一〜一二
六・二二〜二三

高橋和人牧師

第二主日(九月一二日)

公同礼拝

「一緒に主の晩餐を食べる」

詩 編

一コリント

一〇〇・一b〜三
一一・二七〜二二

姜涇米牧師

第三主日(九月一九日)

公同礼拝

「天の故郷を熱望し」

詩 編

ヘブライ

一一六・五〜九
一一・二三〜一六

高橋和人牧師

第四主日(九月二六日)

公同礼拝

「僕となる」

イザヤ

マタイ

一・二
六・二四

高橋和人牧師

九月の祈り

召天者記念礼を覚え主の御許に召された信仰の先達たちを偲び、受け継がれた信仰に生きる歩みを大切にすることができるよう。

コロナウイルスの脅威にさらされ弱っている教会が主の慰めを受けるように。

災害や経済の困難な中にある人々のために。